

## 平成22年度 社会福祉法人武蔵野会 事業計画書

### 1. 事業方針

法人理念「自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ」の理解と実践を、根本的な武蔵野会の使命とし、支援を必要とする人たちに適切な支援を行うこと、また、事業所のある地域のみならず、社会全般における福祉の発展・充実に向けて率先して行動し、人が共に生きる社会づくりに貢献することが基本方針である。

この方針の実践を強化するため、今年度は法人の組織改正を行う。主眼は①評議員会の設置②理事の法人運営への関わりの強化③本部機能の強化④地区制の強化である。具体的には、①は諸事情で滞っていた定款変更申請の認可で実現し、理事会運営の公正性を担保する。②は各理事が、それぞれの専門分野により役割を持ち、さらに、各地区を担当する。③は本部長を理事とし、事務員を増員することで、本部の責任の強化と事務処理の迅速化を図る。④はこれまでの6地区を東部、西部に分け、それぞれに統括の地区長をおくことで、本部との連携をスムーズにし、さらに各地区計画の進捗をより確実に把握し、活性化する。この組織改正により、法人の計画や実践を、各事業所がタイムリーに確認し、法人として一貫した取り組みを実現する。

今年度は第二期中期計画の2年目であり、基本的には当初の計画書に沿って実践するが、初年度の進捗状況により重点目標を変更した経営課題があった。(2の計画に示す)今年度の法人としての重点課題の一つは、施設の建て替えである。中でも、今年度中に、建て替えの具体的な計画を作成する小平福祉園と武蔵野児童学園は年度当初から、本部とコンサルタントが積極的に関わっていく。併せて、法人の長期予算計画と収益事業の規模と内容についての、具体的見通しを年度内に資料化する。

3カ年で実現を目指した成年後見制度の構築については、初年度の昨年に一般社団法人の立ち上げと、成年後見センターの設置までたどり着き、今年度は、具体的な法人後見実務と会員拡大のために積極的にバックアップする。また、昨年設置した他の各プロジェクトチームの進捗管理も確実に進行。(プロジェクトの計画は2に示す)

日本福祉大の提携法人として、提携法人サミットに率先して参加し、法人間での訪問や当該大学の教授の研修等への招聘などの動きを活発化させ、日本の福祉への貢献に寄与するなど、積極的な法人運営により、利用者支援の充実をあらゆる角度、方法で向上させていく。

人材育成では、中期計画に基づき、理念研修を基本に着実に研修計画(別添)を体系化しているが、今年度は各地区での実践報告会を計画的に行うなど、各種別毎の支援実践に関して、法人として意識して関与する。また、採用に関しては昨年、一昨年と年度途中の施設開設のため、中途の多数採用に苦しんだが、今年度は新規施設の開設がないため、新人研修を法人、施設ともに年間を通して充実させ、併せて、ストレスマネジメントやメンタルヘルス、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントの研修を実施し離職率をさらに低下させる。

### 2. 事業計画(法人3か年計画に添って、以下のように実施する)

#### (1) サービスの質の向上(信頼と安心のサービス)

- ①理念に基づいた支援体制の確立(支援介護基本ブックの施設版・個人版継続活用、接遇トレーニングの定着、倫理綱領の実施確認のワークシートの作成)
- ②権利擁護(具体的人権擁護事例を取り上げ人権意識を実践的に培う人権研修の継続と強化、虐待防止に関するガイドライン・委員会の定着、権利ノートの活用継続、)

- ③施設運営（施設運営ハンドブックの作成30%達成、PDCA式進捗管理方法の見直しと徹底・施設版チェックリストの完成と運用・IT環境整備による業務省力化）
- ④サービスの標準化（マニュアルの見直しと定例の報告の仕組みの再検討）
- ⑤業務評価と業務改善（第三者評価の活用、オールA評価の維持、プラスAの前年度の2項目以上増、評価問題解決手法等の業務改善の徹底）
- ⑥リスクマネジメント体制の強化（苦情解決事例集の作成と事故防止、気づきメモの範囲の拡大と改善実践の推進、シエル分析等分析手法の向上、重大事件事例集の作成と活用、経営リスクへの各対応マニュアルの作成、EX自然災害対応マニュアルの完成）
- ⑦情報提供と開示・保護（利用者、保護者、行政、関係団体への情報提供体制の構築、個人情報保護策の法人内標準化と巡回点検実施）
- ⑧利用者満足とQOLの向上（家族満足度調査の法人内一斉実施）
- ⑨授産プロジェクトの進捗管理と運営会議との連携強化

（2）地域社会への貢献（地域福祉の推進）

- ①地域プラスワン活動への取り組みと情報の共有化（活動件数累計13件達成）
- ②地域の福祉人材育成（ボランティア、実習生の受入の増加）前年比5%増
- ③新規事業の量的整備（年度内3事業達成）
- ④日本福祉大学との連携強化継続（提携法人サミットへの参加、法人研修等への大学教授の招聘、提携法人間での情報交換等）
- ⑤福祉施設でのHIV患者の受入に関する研究継続（初年度のアンケート等の分析を基に公開研修等の啓発活動を行う）\*厚厚生労働科学研究の2年目

（3）財務基盤の安定化（自立健全経営の実現）

- ①施設利用率95%達成
- ②事業活動収支差額率5%計上（法人合算）\*四半期の執行状況管理
- ③事業コスト削減率2%、経営改善策の提案（役職者）
- ④本部繰入金年5000万円、各施設の収入の1%を予算化の継続
- ⑤第2回コスト改善コンクールの実施
- ⑥施設改築、修繕計画対象施設の積極的支援（児童学園、小平福祉園など）

（4）人材育成（学習と成長の組織へ）平成22年度の研修計画添付

- ①研修システム体系化（研修履歴管理、地区・施設研修との連携、センターの設置と運用、他機関との連携・共同開発）
- ②人材育成方法の開発（理念研修の継続強化、トレーナーの育成と教材開発、地区研修実施、各地区での実践報告会及び実践報告集の作成）
- ③研修カリキュラムの試行と再考（階層別研修、初任者研修、専門研修の実施、資格取得支援研修の実施）
- ④実行性のある研修の仕組み構築（リアクションペーパー等での研修評価、成果の検討、研修履歴シートの運用と記録書式の開発と運用）

（5）人事制度・法人の組織強化（活力と持続的発展性のある組織づくり）

- ①長期展望構想の具体化継続（法人経営モデルの確立、人材確保計画、施設整備計画、施設需要計画）
- ②中期計画の達成支援（法人全体の中期計画の進捗管理の見直しと強化、各施設の中期計画の進捗管理と達成支援、「地区」「プロジェクト」の目標の進捗管理方法の強化）

と達成支援)

- ③本部機能の強化継続(総務、人事、財務機能のあり方の整理、決定事項の取り組み方法、各施設の項目別進捗状況の報告と管理、人員の増員等について理事会に答申)
- ④人事制度の課題の抽出(人事考課制度の課題の抽出と継続的取り組み、キャリアパスの明確化と公表、異動基準の明確化と公表、職員配置計画の策定)
- ⑤働きやすい職場づくり(職場環境調査の実施、現場のメンタルヘルス対策の実施、職員定着率の目標設定と向上策の検討、労災事故の把握と対策、ハラスメント(セクハラ、パワハラ)の把握と対策の実施)

(6) 委員会・プロジェクトチームの継続

委員会はトータル人事制度委員会と広報委員会だけを継続し、以下のプロジェクトチームはすべて3カ年計画に沿って継続し、担当地区も同様とする。

- ① 待防止関連強化(大島・練馬地区) ガイドラインの運用、委員会の実施
- ② リスクマネジメント環境推進(世田谷地区) 事故事例集の活用、研修の継続(地区長、施設長が主に実施)
- ③ 人材育成・研修(本部) \*計画表参照
- ④ 新任職員用教育テキストの作成(葛飾地区) 年度内の完成
- ⑤ 50周年記念行事推進(八王子・御殿場地区) 会場の決定、記念誌の概要決定
- ⑥ 収益事業のあり方研究(本部) 施設の建替え計画等を勘案した本部収入支出の長期見込み算定と収益事業の方向性の決定
- ⑦ 相談センターの創設準備(本部) 概要の検討
- ⑧ 成年後見システムの構築(本部・八王子) 5件の後見実務支援、後見センター支援
- ⑨ HIV長期療養患者の福祉施設受け入れに関する調査研究(本部) 啓発研修等の実施
- ⑩ 武蔵野会セミナーの推進(練馬地区) セミナーの継続と50周年の記念セミナーの講師や方法の決定

3. 役員計画(理事10名 監事2名) \*評議員については、定款変更認可後に発足

任 期 平成22年2月20日～平成24年2月19日

理事長 上野 純宏

理 事 金森 仁 青木 昌子 中島 通子 廣本 肇 渡辺 瞭  
青木 秀雄 今坂 康志 村山 悦正 高橋 信夫

監 事 春日 完和 谷口 健吉

4. 施設管理者・役職者計画（平成22年4月1日）

法人本部・事務局	(法人本部長) (課長)	高橋信夫 中山政夫	(次長) (主任)	山内哲也 津川志帆
施設名	施設長	課長	係長	主任
武蔵野児童学園	上林 悟	金子陽介		有山 淳 矢口俊夫
さくら学園	安田喜人	川野文幸	鈴木雅子 芹沢恵子 樋口孝行	小野博久 小林俊夫 石井麻美 柏木誠次 渡辺清美(栄養士)
すぎな愛育園	山田貴美			児玉美和 菊池 愛
児童デイサービス こすもす				安部 優
八王子市心身障害者福祉センター		所長 龍原敏勝		板谷 徹
練馬福祉園	中島通子	三澤 朋洋	宗 信介 竹矢 恒 沖田信弘 (給食)	須田昭人 田代 充 渡辺 睦 玉井さよ 大 関 智 丸山里美(看) 歌代玲子(経理)
希望の里	村山俊彦		有賀 元三	
大島恵の園	多々良康子	木村 一	富山孝行	佐藤宏介 小川肇 丸山幸則
第2大島恵の園	萬谷高文	古島福江		松本安裕 高主祐司 三浦郁也 原口剛史 佐々木里美
白鳥福祉館	福元 與		日下幸重	相田美奈子
西水元あやめ園	吉倉美佐子		加茂靖史	小原元樹 篠塚直樹 笹崎孔明 阿部恭子 白田正明 萩野直人
東堀切くすのき園	岡部智彦		本田直記	近藤祐介
世田谷区立 駒沢生活実習所	宮原康輔	山内ゆきみ		中川 穰
世田谷区立 九品仏生活実習所 *中町分場	松岡利明			野田久美子 *三浦誠一
きね川福祉作業所	須永 正			宇田伸輔
練馬区立 北町福祉作業所	金澤正義			太田紀子(経理) 外山良裕
世田谷区立 世田谷福祉作業所	野々村武志		福田信行	
八王子生活実習所	山内哲也			坂部博則 林 清乃
八王子福祉作業所	森 直貴		浦川 明	栗山 学
練馬区立 光が丘障害者地域生活支援 センター すてっぷ		所長 石野哲朗		
世田谷区立 烏山福祉作業所	横尾泰朗		伊藤久美子	
練馬区立 大泉町福祉園	木村文孝		星 真理子	小久保匡弘 酒井康弘
小平福祉園	大島安彦	鈴木 浩	杉崎充一	山浦勇次 鈴木光二 鳥入米康 小泉裕美子 野村美奈(経理)
千代田区立障害者福祉 センター	大和田 卓		窄口良記	相澤 満

5. 職員計画（平成22年4月1日）

	本部・G H	武蔵野 児童学 園	さくら 学 園	すぎ な 愛 育 園	すぎ な デ イ サ ー ビ ス	心 障 セ ン タ ー	八 王 子 市	練 馬 福 祉 園	練 馬 デ イ サ ー ビ ス	希 望 の 里	大 島 恵 の 園	第 2 大 島 恵 の 園	白 鳥 福 祉 館	西水元 あやめ園 <small>特養 在宅 居宅</small>	東 堀 す 切 の き 園	駒 沢 生 活 実 習 所	九 品 仏 生 活 実 習 所	中 町 分 場
常勤	4 (1)	27	55	21	2 (2)	4	87	1 (2)	7	36	36	13	39	2 (2)	19	19	20	2
非常勤	6	15	57	3	4	2	45	4	4	8	10	15	29	15	14	4	8	3
合計	10 (1)	42	112	24	6 (2)	6	132	5 (2)	11	44	46	28	68	17 (2)	33	23	28	5

( ) は施設長等兼務で常勤数から外す

き 福 ね 社 川 作 業 所	北 町 福 祉 作 業 所	世 田 福 祉 作 業 所	八 生 王 子 実 習 所	八 王 子 作 業 所	光 生 が 活 丘 支 て 援 っ セ ン タ ー	世 田 山 谷 福 祉 立 作 業 所	練 馬 泉 区 町 立 福 祉 園	小 平 福 祉 園	千 代 福 田 社 区 セ ン 障 害 者	合計	前 年 比
9	9	11	18	12	4	16	23	46	23	567	+10
7	5	3	16	13	3	5	13	15	12	338	+111
16	14	14	34	25	7	21	36	61	35	905	+121

6. 施設利用計画（平成22年4月1日）

	本 部	武蔵野 児童学 園	さくら 学 園	すぎ な 愛 育 園	すぎ な デ イ サ ー ビ ス	心 障 セ ン タ ー	八 王 子 市	練 馬 福 祉 園	練 馬 デ イ サ ー ビ ス	希 望 の 里	大 島 恵 の 園	第 2 大 島 恵 の 園	白 鳥 福 祉 館	西水元 あやめ園	在 宅 サ ー ビ ス	シ ョ ー ト
定員	17	50	160	56	20		80	20	30	82	82	45	90	48	14	
現員	17	46	155	56	20		80	20	36	83	83	50	90	41	14	
ショート			2				10			2	3					
ミドル											1					
デイ					20			20				10				
GH	17															

東堀切くすのき園	駒生沢活実習所	九品仏生活実習所	中町分場	き福ね祉川作業所	北福町祉作業所	世福田祉谷作業所	八生王子活実習所	八福王祉子作業所	光生が活丘支す援てセンター	烏福山祉作業所	大練泉馬町区福立祉園	小平福祉園	千代田区立障害者福祉センター	合計  (前年比)
50	40	42	15	45	47	51	40	60		66	50	42	36	1378 (+27)
55	44	49	4	48	48	50	51	92		62	51	42	36	1423 (+22)
														15 (+2)
														1 (±0)
														99
														17

\*【グループホーム】 柘植寮（大島）4 しろがねホーム（港区）5 ふじもりホーム（八王子）4 からすやまホーム（世田谷区）4

\*【武蔵野児童学園】の定員50人には、グループホーム（ひまわりホーム6、すずらんホーム6、なのほなホーム6）を含む。

## 7. 理事会開催計画

第240回理事会	5月27日	平成21年度事業報告並びに決算に関する件 他
第241回理事会	9月30日	平成22年度補正予算に関する件 他
第242回理事会	1月27日	平成23年度の施設長人事の件 他
第243回理事会	3月24日	平成23年度事業計画並びに予算に関する件 他

※この他に必要が生じた時は随時開催。

※第240回理事会の前に法人監事による監査を実施する。（5月13,14日）

## 8. 会議・委員会計画

### ①会議

会議名	開催回数
運営会議	月1回
施設長会議	隔月1回
地区会議	月1回
施設運営会議	月1回
事務担当者会議	随時
広報編集会議	年4回

### ②委員会

委員会名	開催回数
人事制度委員会	隔月
広報委員会	年4回

### ③プロジェクトチーム

プロジェクトの内容	開催回数	プロジェクトの内容	開催回数
虐待防止関連強化	隔月・随時	収益事業のあり方研究	隔月・随時
リスクマネジメント環境推進	隔月・随時	相談センターの創設準備	隔月・随時
人材育成・研修	隔月・随時	成年後見システムの構築	隔月・随時
新任職員用教育テキストの作成	隔月・随時	HIV患者の福祉施設受入に関する調査研究	隔月・随時
50周年記念行事推進	隔月・随時	武蔵野会セミナーの推進	隔月・随時

## 9. 研修計画（別に添付）

### 10. 改修・購入等計画

#### ①建物設備関係

- ・武蔵野児童学園：建物、付帯設備の老朽化による改修
- ・すぎな愛育園：廊下カーペットの張り替え、園庭テラスマットの交換
- ・心身障害者福祉センター：第1会議室床の張り替え、女子トイレの洋式化工事
- ・練馬福祉園：受電高圧ケーブル改修
- ・大島恵の園：居室扉の改修、網戸の改修、外壁改修
- ・第2大島恵の園：暖房ポンプ改修、居室扉改修、グリストラップ改修、温水便座設置
- ・白鳥福祉館：玄関自動扉の交換、1階製菓室パーテーション、壁などの補修
- ・西水元あやめ園：居室・トイレの扉、手すり改修
- ・きね川福祉作業所：作業棟の床の改修
- ・八王子生活実習所：扉の改修、外のタイル改修
- ・八王子福祉作業所：エアコン
- ・練馬区立北町福祉作業所：建物内外緑化、空調関係修繕、厨房設備の改修

#### ②固定資産物品購入関係

- ・武蔵野児童学園：パソコン、冷暖房機器
- ・さくら学園：大型衣類乾燥機、パソコン
- ・すぎな愛育園：パソコン
- ・八王子障害者センター：講習会用ノートパソコン、職員用パソコン
- ・希望の里：地デジ対応テレビ
- ・練馬福祉園：介護用ベッド、ビニールハウス用エアコン、地デジ対応テレビ
- ・大島恵の園：ボイラー室循環ポンプ、ガラスハウス、スチームコンベンション
- ・第2大島恵の園：搾油機、ベッド・タンス、会議室机、椅子、機能訓練機器
- ・白鳥福祉館：製菓喫茶関係備品、パソコン
- ・西水元あやめ園：低床ベット2、リクライニング車いす2、エアマット2、温冷配膳庫3  
パソコン、介護保険ソフト、ベッド柵、介助バー、厨房タンク、給湯機交換、姿勢保持クッション
- ・駒沢生活実習所：長テーブル、パイプ椅子、屋台、ソファベッド
- ・九品仏生活実習所：小型電動缶潰機、アセスメントソフト（プランゲート）
- ・きね川福祉作業所：プロジェクター、厨房機器（ウォーマー）
- ・世田谷福祉作業所：音響器具
- ・八王子生活実習所：車いす、リハビリ機器
- ・八王子福祉作業所：封緘機、プレハブ
- ・東堀切くすのき園：温冷式配膳者、倉庫
- ・烏山福祉作業所：ガスオーブン

- ・大泉町福祉園：厨房冷凍冷蔵庫、倉庫、食堂テーブル
- ・小平福祉園：リフト浴、パソコン14台、

### ③車輛関係

- ・さくら学園：日中活動用車両
- ・すぎな愛育園：地域支援用車両
- ・小平福祉園：軽車両
- ・きね川福祉作業所：授産用車両

## 1 1. 施設建設時借入金償還計画

単位：千円

借入先	当初	償還済	当期返済額	残額
福祉医療機構 第2大島恵の園建設	150,000	120,000	7,500	22,500
同上 さくら学園新棟建設	50,000	0	2,660	47,340
合計	200,000	120,000	10,160	69,840

## 1 2. 職員採用計画

平成23年度に向けて下記の通り採用試験等を実施する。今年度は、新規施設の運営予定がなく、採用人数は少ないと予想されるため、下記の試験だけで採用可能と考える。しかし、離職率を下げるための、人材育成や福利厚生の実施が不可欠となる。

- ◇ 10月16日 職員採用1次試験実施予定
- ◇ 10月30日 職員採用2次試験実施予定

## 1 3. その他の計画

- (1) 新規採用職員への辞令交付式を大島での新任研修の最終日に行う。  
新規採用職員以外の辞令交付は理事長に代わり各施設で施設長が行う。
- (2) 広報計画として武蔵野会ニュース「春夏秋冬」を発行する。  
今年度内に、割り付けやカラー刷りへの変更等、紙面の刷新を検討する。

〔春夏秋冬 発行計画〕

137号(春)	H22	4.1	4,200部
138号(夏)	H22	7.1	4,200部
139号(秋)	H22.10.1	1	4,200部
140号(新年)	H23.1.1	1	4,200部

- (3) 法人の財源を得るために各地域、施設でバザー等を開催する。  
開催内容、日程は、各地区、各施設に任せる。様々な機会を捉えて実施し、法人バザーという大規模な行事としては位置づけないのは昨年度同様。
- (4) 法人施設に関わって故人になられた方たちを偲ぶ会を行う
  - ①八王子・上川霊園(武蔵野児童学園) 1月
  - ②御殿場・ぐみ沢共同墓地(さくら学園) 6月
  - ③大島・波浮港共同墓地(大島恵の園、第2大島恵の園) 2月
- (5) 職員の勤続表彰(参加は理事長、表彰を受ける職員、施設長、本部職員)  
6月に本部主催で行う。家族会役員を招き、職員の勤続表彰を行う。

平成22年3月24日

第239回 理事会 承認

